

秋田県における温室効果ガスの排出状況（2017年度）について

秋田県生活環境部温暖化対策課

1 温室効果ガス総排出量

- 2017(平成29)年度の温室効果ガス総排出量は9,566千t-CO₂
 基準年度(2013年度)比 -9.4%(同 2016年度は -6.5%)
 前年度(2016年度)比 -3.1%
- 温室効果ガスの種別構成比
 二酸化炭素 90.6%、メタン 3.9%、一酸化二窒素 3.1%、代替フロン等 2.3%

表 1 温室効果ガスの排出量

温室効果 ガス種別	秋田県(単位:千トン-CO ₂)						
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	構成比 (%)	2013年度比 (%)
二酸化炭素	9,653	9,387	9,146	9,002	8,671	90.6%	-10.2%
※1	(9,961)	(9,701)	(9,402)	(9,427)			
メタン	446	393	384	370	376	3.9%	-15.8%
一酸化二窒素	319	314	306	300	298	3.1%	-6.7%
代替フ ロン等							
HFCs	115	135	145	165	183	1.9%	+59.8%
PFCs	20	22	22	24	27	0.3%	+37.2%
4ガス							
SF ₆	7.8	7.7	8.2	9.2	8.8	0.1%	+13.4%
※2							
NF ₃	1.0	1.2	1.3	1.9	2.2	0.0%	+132.7%
合計	10,561	10,259	10,012	9,872	9,566	100%	-9.4%
※1、3	(10,869)	(10,573)	(10,268)	(10,297)			

※1 都道府県別エネルギー消費統計(資源エネルギー庁)が1990年まで遡及して修正されたことに伴い、県の二酸化炭素排出量も遡及して修正した。()内は、遡及修正前の数値を参考値として掲載している。

※2 代替フロン等4ガスとは、HFCs(ハイドロフルオロカーボン類)、PFCs(パーフルオロカーボン類)、SF₆(六ふっ化硫黄)、NF₃(三ふっ化窒素)の4種類のガスの総称。

※3 端数処理の関係で合計と各項目の和が一致しない場合がある。

※4 二酸化炭素以外の温室効果ガスは、排出係数を勘案して、単位を千トン-CO₂とした値を算定している。

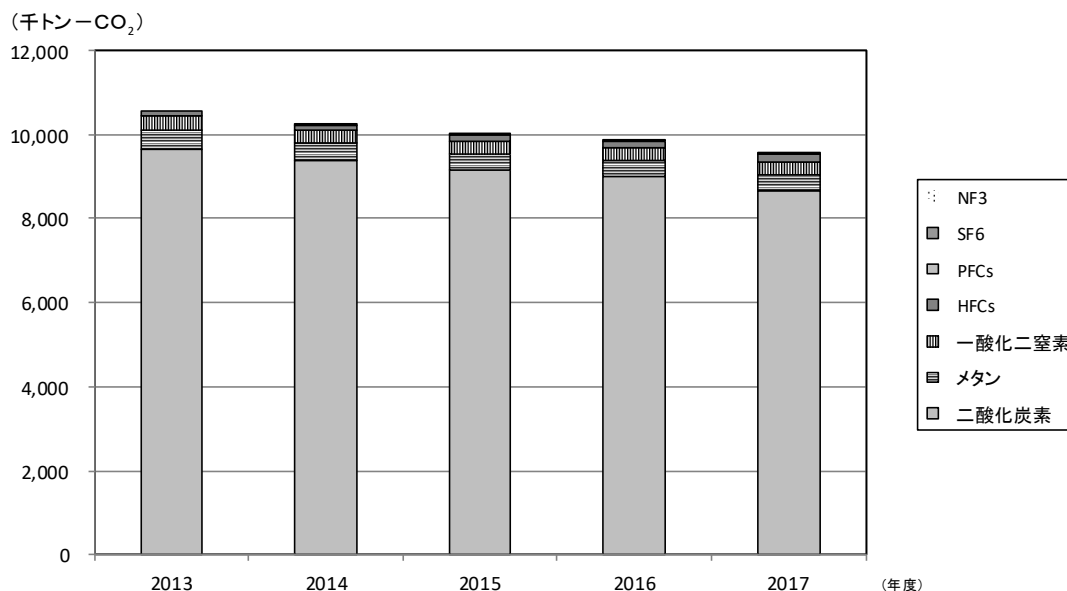


図1 温室効果ガス総排出量の推移

2 部門別の二酸化炭素排出量

- 温室効果ガス総排出量の9割以上を占める二酸化炭素の2017（平成29）年度の排出量は8,671千t-CO₂で、基準年度（2013年度）と比べ10.2%の減少でした。
- 全国と比較して、産業部門の全体に占める割合が低くなっています。
- 民生家庭部門の排出量は全体の19.8%を占めており、全国における民生家庭部門の割合（15.7%）より大きくなっています。

表2 部門別の二酸化炭素排出量

区 分	秋田県（単位：千トン-CO ₂ ）					全国（百万トン-CO ₂ ）		
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	構成比	2017年度	構成比
産業部門	2,594	2,543	2,527	2,510	2,408	27.8%	409	34.6%
民生家庭部門	2,049	2,073	1,797	1,787	1,714	19.8%	186	15.7%
民生業務部門	1,776	1,658	1,646	1,535	1,407	16.2%	209	17.7%
運輸部門	2,003	1,913	1,857	1,884	1,912	22.1%	213	18.0%
エネルギー転換部門	551	508	529	513	447	5.2%	90	7.6%
廃棄物部門	438	418	517	527	544	6.3%	29	2.5%
工業プロセス等	244	274	273	247	239	2.8%	46	3.9%
合 計	9,653 (9,961)	9,387 (9,701)	9,146 (9,402)	9,002 (9,427)	8,671	100%	1,182	100%

（注）端数処理の関係で合計と各項目の和が一致しない場合がある。

（注）全国の排出量は、「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2018年度）確報値」（国立環境研究所）を使用。

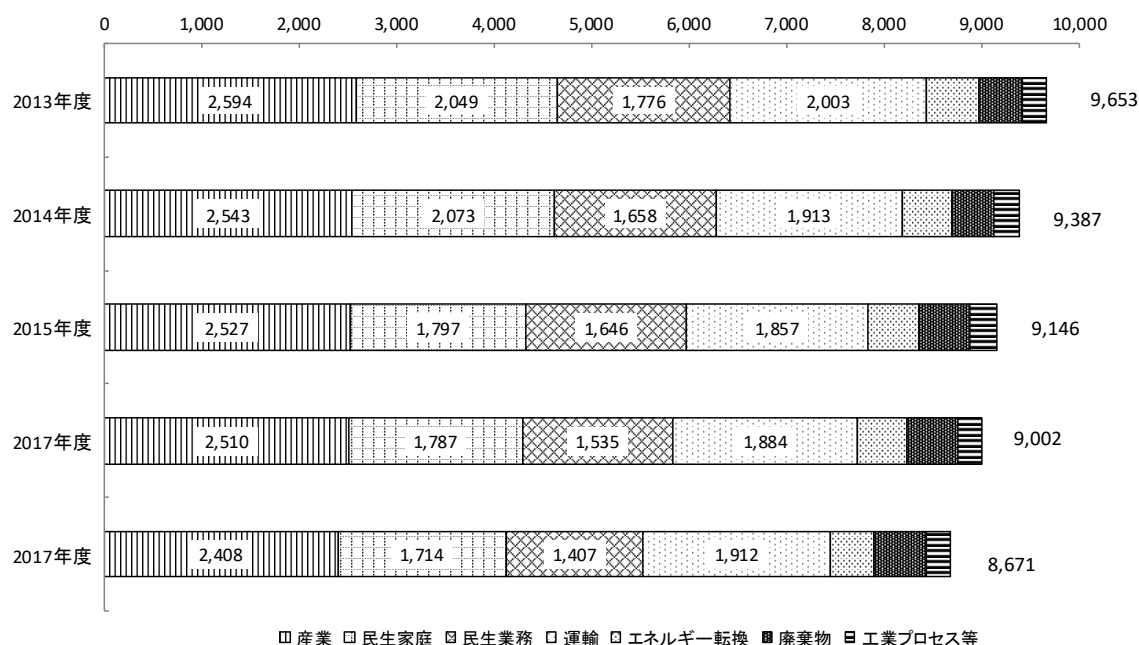


図2 本県における部門別の二酸化炭素排出量の推移

3 森林吸収量

- 2017年度の本県の森林吸収量は2,262千トン-CO₂（林野庁提供データ）となっています。

4 温室効果ガス排出量の削減目標

平成29年3月に策定した「第2次秋田県地球温暖化対策推進計画」では、2030年度の削減目標を、2,638千トン-CO₂としています。

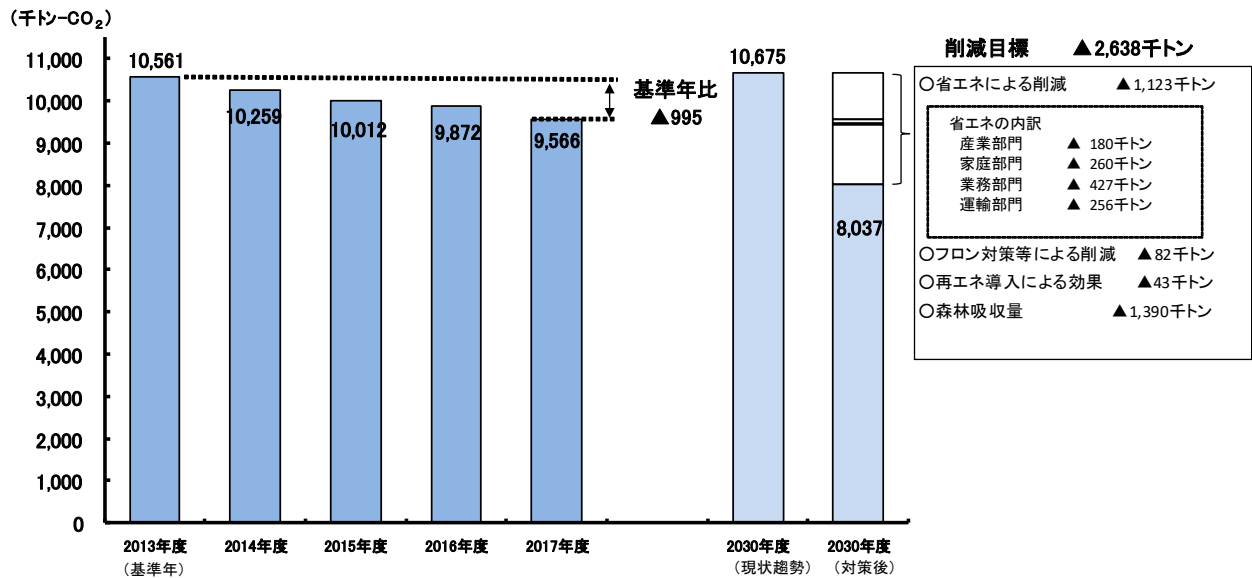
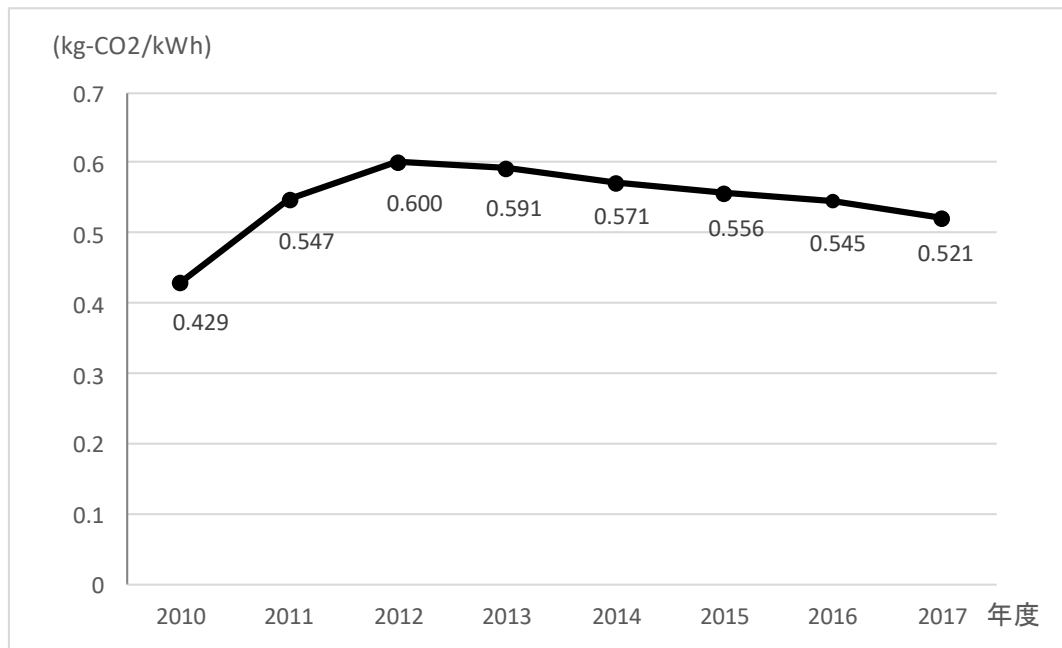


図3 温室効果ガス排出量と削減目標

<参考>

東北電力に係る二酸化炭素排出係数の推移

電力の二酸化炭素排出係数（実排出係数）は東日本大震災以降大幅に高くなっていましたが、2012（平成24）年度をピークに減少傾向となっています。



東北電力に係る二酸化炭素排出係数（実排出係数）の推移

※ 電力の二酸化炭素排出係数（実排出係数）

電気事業者がそれぞれ供給した電気の発電に伴い、化石燃料を燃焼することにより排出された二酸化炭素の量。販売電力量1 kWhあたりのCO₂排出量（kg）で表される。